

◆IoT&AI <ドローン（無人航空機）>

20年の東京オリンピックの聖火台点火は空飛ぶタクシーになるようである。米国のライト兄弟が人類初の有人動力飛行に成功した1903年から約120年後、空飛ぶタクシーが身近なものになる。ドローンは蓄電池が動力、24時間昼夜別なく飛行可能、特別なインフラも不要。翼はマルチコプター（回転翼機）と固定翼機があり地域や距離から選定する。ドローンは流通（モノ・ヒト・医療品・在庫管理）、空中撮影、警備、災害対応、インフラ維持管理（鉄道、道路、送電線、橋、パイプライン、鉱山）、測量、農林水産業（農薬・肥料散布）、機械化施工、軍事など幅広く利用できる。日本でも2020年から有人地帯で飛行可能となる。最近の話題として、Zipline（米）が2016年にルワンダでワクチン、輸血用品、緊急ワクチンHIVなど医療品の緊急配送サービスを開始した。365日・24時間、天候に関係ないサービスが売りもので、メールで契約医療機関から医療用品の注文を受け、数分で梱包した後、1分で離陸、時速100kmで1.8kg以内の荷物を80km先まで、30分以内にパラシュートで指定場所に投下して救急救命に貢献している。1つのセンターで1日500個まで対応可能である。タンザニア、アメリカでも近々展開する。アマゾンの無人機配送サービス（Prime Air）は毎日1.1億個発生するオンライン販売の9割が5ポンド未満ということに着目し、ラストマイルをUSPSの約半分の値段\$1（\$0.05/マイル、片道10km、）でサービスを計画している。Ziplineは固定翼を使用しているのに対し、アマゾンではオクトコプター、ヘリコプターと飛行機の要素を併せ持つハイブリッドドローンを開発している。輸送距離や輸送地点の空間などの条件で適宜機材を運用できる。このほか、郵便、ピザなどの食事の出前サービス、ホテルでカクテルやドリンクの配送サービスなども始まった。自動車学校がドローン教室を始めるなど新しいビジネスも出てきている。今後、空飛ぶタクシーは夢でなくなったが4～5人乗りの空飛ぶタクシーの開発には動力である蓄電池、鉄やガラスより軽量な材料などさらなる開発が必要となる。

SDGsを経営に

◆成長戦略 <持続可能な開発目標（SDGs）を経営に取り入れよう>

2015年9月、国連で193の加盟国によって「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための「2030アジェンダ」が採択された。このアジェンダでは、「誰一人取り残さない-No one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針として、17のゴールとそれを具体化した169ターゲットが持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）として設定された。貧困、保健、教育などの課題に加え、都市、気候変動、格差などの課題の解決を目指す。SDGsを達成するためには、一人ひとりに焦点を当て、これを、貧しい国、中所得国、豊かな国のあらゆる国々で取り組むことが必要となる。さらに、民間企業や市民社会の役割が益々高まり、あらゆるステークホルダーが連携すること（グローバル・パートナーシップ）も求められている。自治体を含めて官民は総力を挙げて開発援助に取り組み、都市のスマート化へ向けてはIoTや人工知能（AI）を活用した電力・エネルギー（脱化石燃料）、交通（モーダルシフト）、街づくり、水、通信などのインフラが求められる。気候変動リスクの回避へ環境負荷の高い企業からの投資撤退（ダイベストメント）が始まっている。企業はこれをチャンスと捉え、経営に積極的にSDGsを取り入れて社会貢献し、収益を得ることでわが社の成長戦略に結び付けたい。そのため、169ターゲットの一つ一つに成長戦略の芽を発見していきたい。

◆いちもくのナイスなことば 今月はお休みします

